

伊藤ゆみ

実録!!

ほんとにあった

怖い話

5

靈感まんが家・

伊藤ゆみの

心霊事件簿



開心時間



「おれんじ、おれんじ……」

「いけません。」

旅先では気をつけてねば

靈感のある人は



伊藤ゆみ



お久しぶりです
伊藤ゆみです

少し前まで
私には世の中が
こんなふうに見えて
ました

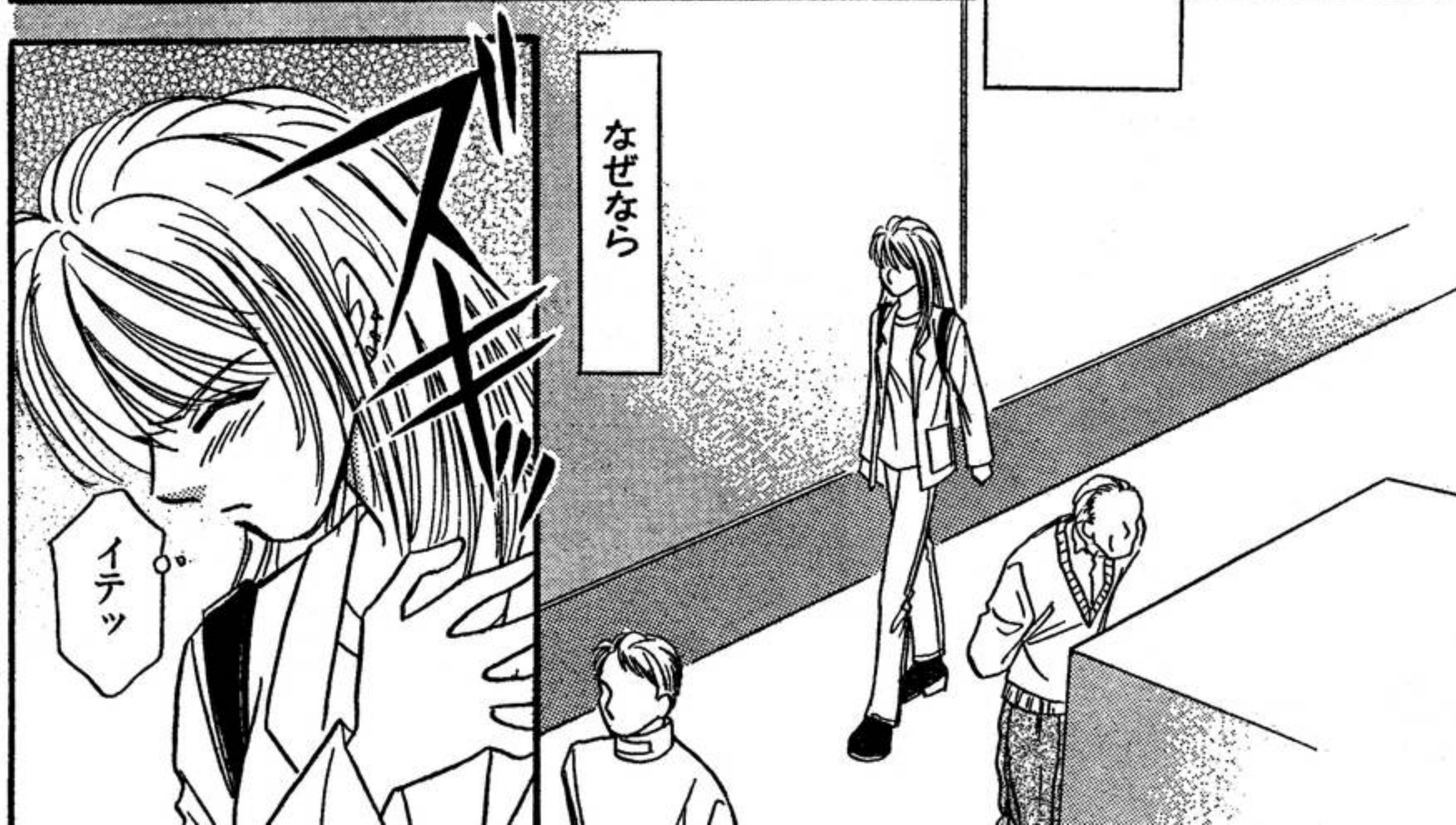
今でこそよけいな
ものはキャッチしない
ようコントロールできる
ようになりましたが

ゆみちゃん
何連れて
歩いてんじや...



そんな私の
苦手な場所の
ひとつに

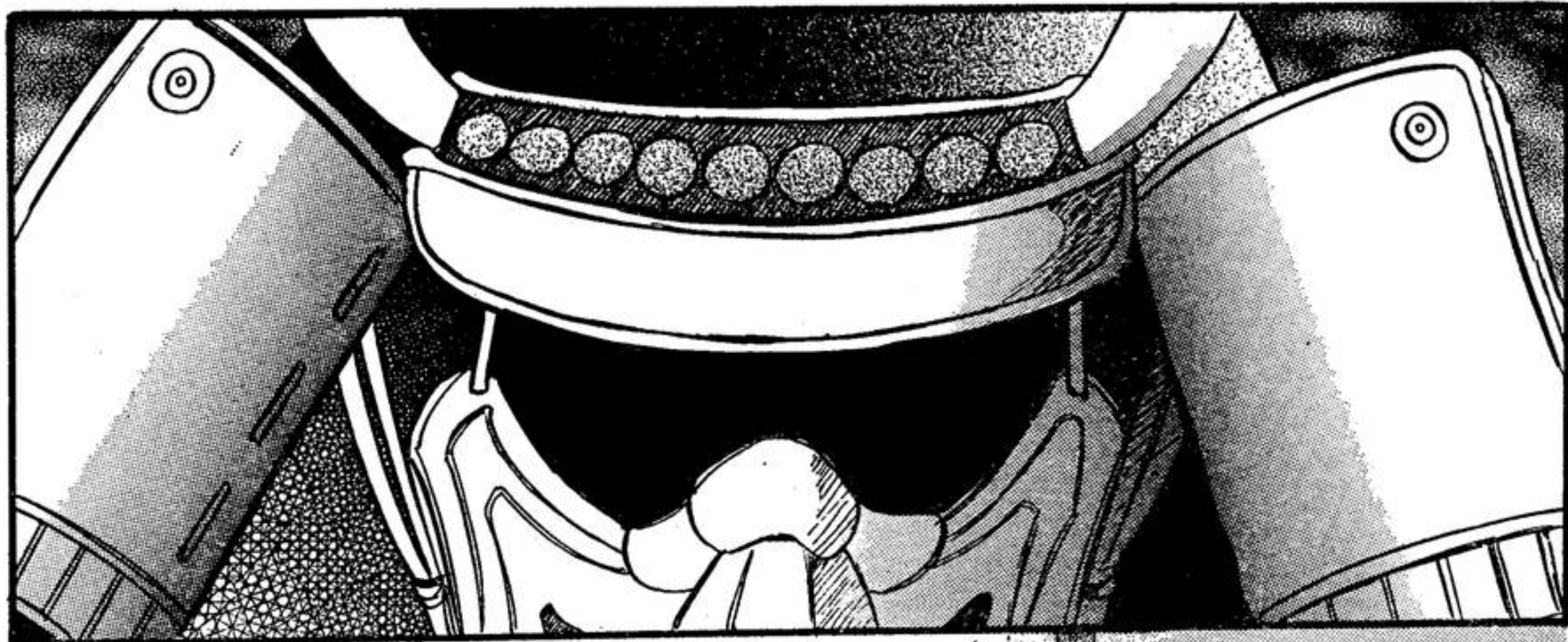
歴史資料館が
あります



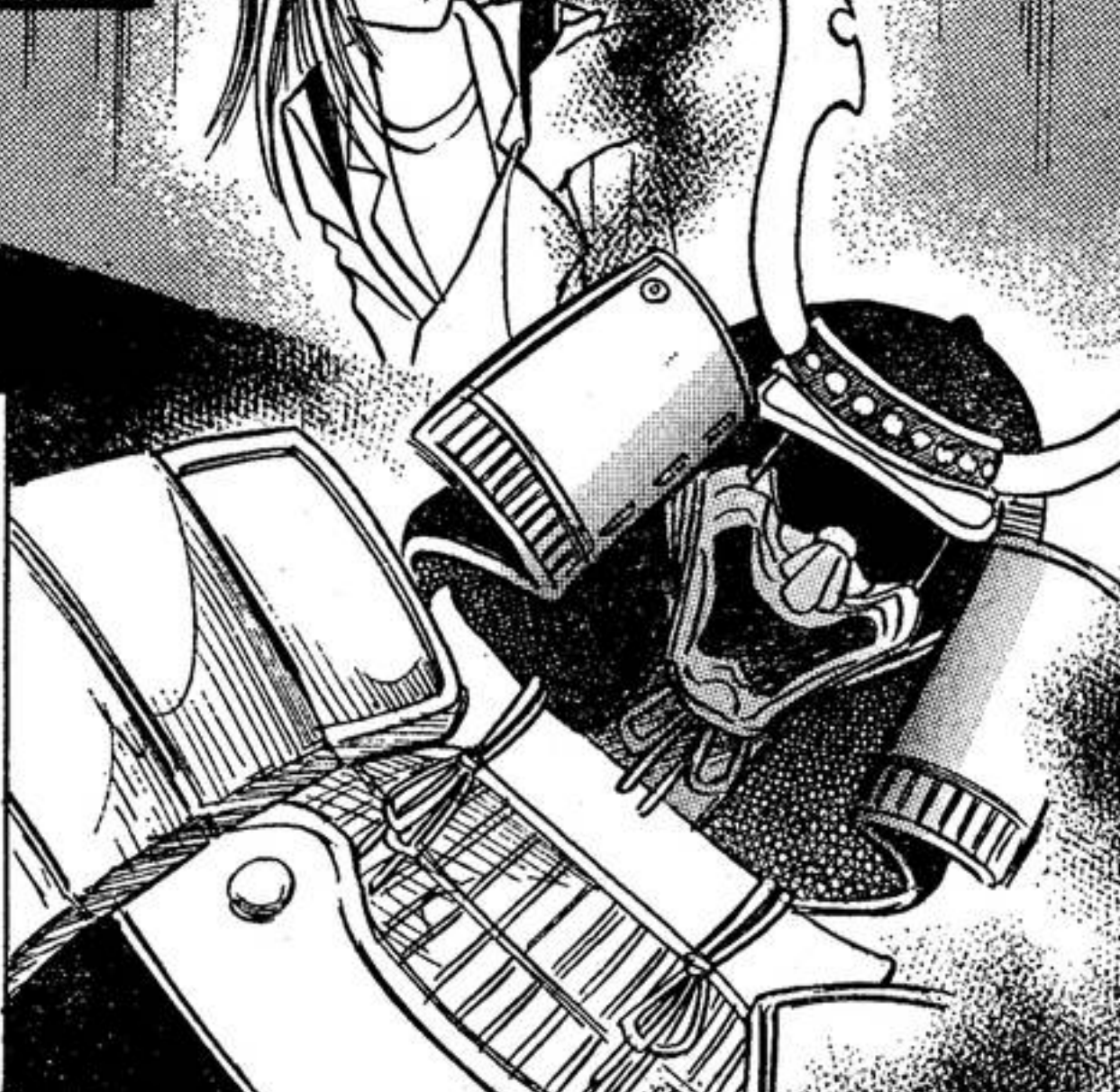
なぜなら

イテッ

閉じた時間



このように時間を
そのまま閉じ込め
たような場所では



左肩に
ケガでもした
のかなあ

まはケガ
させたくか...

その物を使って
いた人の記憶や
感覚まで

閉じ込められて
いるように感じる
時があるからです

うーん
ろう人形館の
ようだ…

今回はそんな
場所で出合った
恐怖体験を
お話します

それは数年前
友人と行った
旅先で

武田家縁の
歴史資料館へ
行った時のことです

その資料館は
寺社に隣接して
建っていて

大きくはないが
白木のきれいな
建て物でした

武田家縁の
資料館かあ…

うーん

彼女は前沢洋子(仮名)
霊能者だったと
いうおばあ様の

血を引いたかどうかは
定かではありませんが
彼女も私同様
「見えちゃう人」です

—やっぱ
やばい
と思う?

でもあたし達
みたいな体質で
そんなこと言ったら

何もでき
ないもんね

そのとおり

何の話?

早く資料館
見に行こう

郷土資料館

ここが入口
だね

そして最初に
私達の目に
飛び込んで
きたのは



亂 七 山

おおー

かっこいいー!!

部屋に置いてた
スニーカーが
おいそ

なんか
いきなり

戦国時代に
タイムトリップ
してみた

ほーっ

武田家と言えは
群雄割拠の戦国時代
信玄公を頭に
騎馬軍団を率いて

上杉謙信と渡り合い
織田信長を悩ませた
最強の戦闘集団です

—でも

それは一日中
日の当たらない
場所で嗅ぐ
ような

カビくさい
湿った土の
匂いでした

—何？

この匂い...



でも館内は掃除も
行きとどき外気も
外光も充分取り
入れられていて

そんな匂いが
するはずは
ありません

いらっしやいませ

ちなみに
靈感の
友人は匂いに
気づかなかった
そうです



—何
それ？





うわっ
何この空気

息がつまり
そう

そしてまわり
つくような土の
匂いの消えぬまま

順路に足を
踏み入れると

うーん



これ
ちよっと
すごすぎない？

そういえば
洋子大丈夫
かなあ



イラッ

自分では
除霊も浄霊も
できない私達に
とって

無視するのが
精一杯の防
御方法です

はいはい
シャッター
しめたのね

フィッ
遠い目も

それにしても
異様だよ
この雰囲気



ハッ

資料館で
こんな生々しいの
はじめてだよ



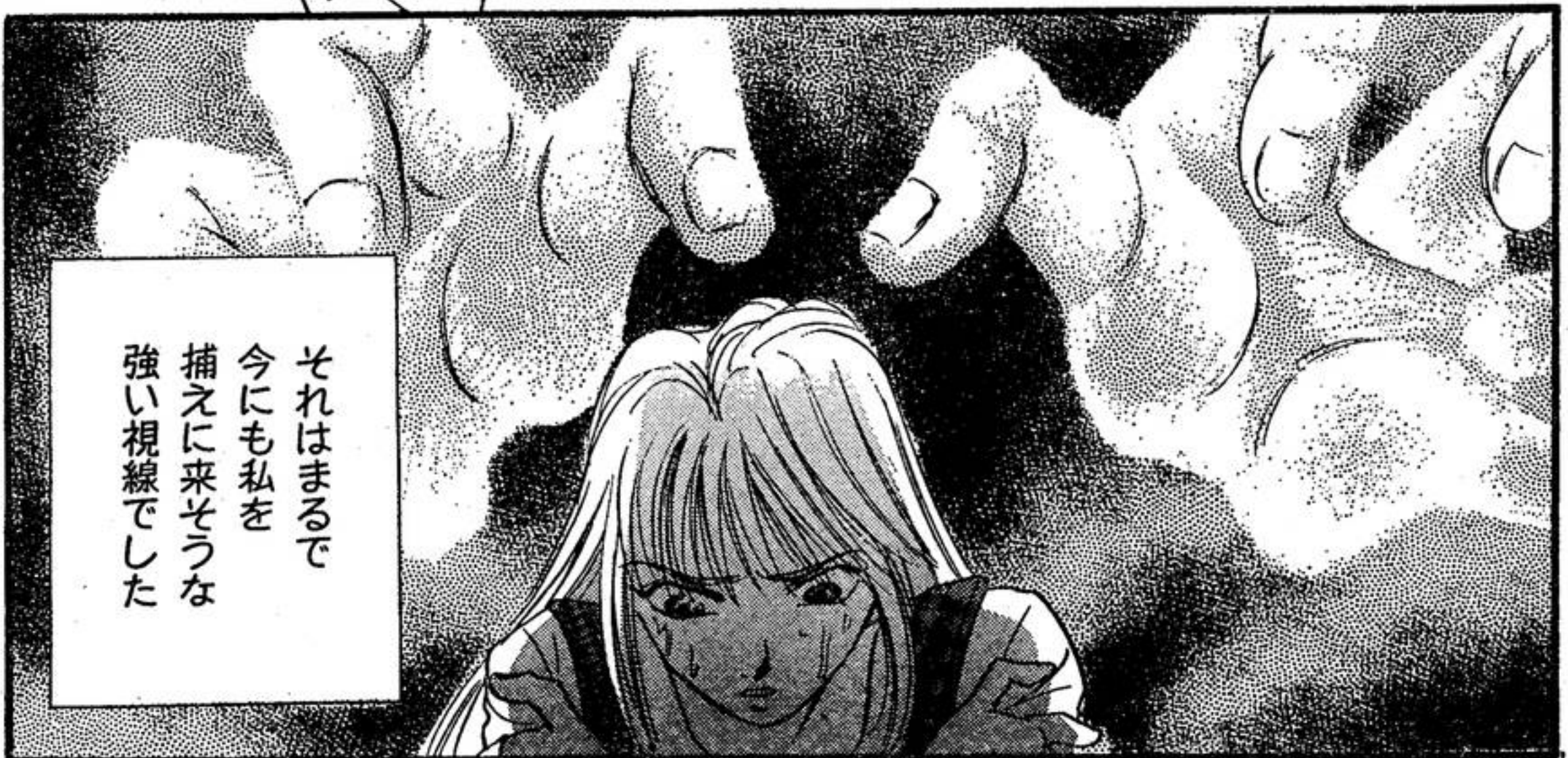
なんか
見はられてる
みたい

すっげー
プレッシャー

とにかく無視
してさっさと
通り過ぎよう

瞬間
——と思った





閉じた時間



で…でも
振り向いたら

キヤツチ
しちゃう……

そしたら
相手の
思うつぼだ



無視しなきゃ

あたしは
あんたなんか
気づいてない

だから
振り向いちや



振り向いちや
だめだ!!

ズッ
ズッ

ズッ
ズッ





ま…まずい

同調したら

引っぱられ
かねない

と…とにかく
他に意識を
向けなきや…

わーん
んも回を
離れなさい

